

野鳥の診療カルテ集計2006

須田沖夫⁽¹⁾、正藤陽久⁽²⁾、金坂裕⁽¹⁾、馬場国敏⁽¹⁾、大窪武彦⁽¹⁾、
大塩哲也⁽¹⁾、柴田晴夫⁽¹⁾、中津賞⁽¹⁾、高島一昭⁽³⁾、中村丹美⁽⁴⁾、
新妻勲夫⁽¹⁾、森田斌⁽¹⁾

(1)NPO野生動物救護獣医師協会

(2)日立市かみね動物管理事務所

(3)鳥取県動物臨床医学研究所

(4)長崎県野生動物保護センター

06'カルテ集計の方法

- 各会員病院にて診療
- 野生動物診療カルテに記録
- 郵送によるカルテの回収
- 集計(1月-12月)
- データベース化
- 分析・データ提供

会員番号	M-	会員氏名	初診年月日		年	月	日	
保護者氏名	住所 〒 TEL () -			TEL () -				
保護日時	年	月	日	時間	保護地	〒	都道府県	
保護場所	〒 基上 宅地内 駅・学校等施設内 空き地 河川 湖沼 雑草 田畑 その他 ()							
保護理由	逃げない 量のがまん 交通事故 ガラス等に衝突 異常人工施設より保護 狩り救出 誘拐 化学物質汚染 (除菌剤 殺虫剤類 除草剤類 その他 ()) その他 ()							
● 性別 年齢 性別 年齢 のつ 子 孫 状況								
動物種	品種	ドバト キジバト スズメ ヒヨドリ ムクドリ カラス (ハシブネ) ツバメ ()					ツバメ ()	
	年齢	?・雛内びな・雛立ちびな・若鳥・成鳥					性別	?・♂・♀
	性別						体重	g
現況	品種	ホンダタヌキ アブラコウモリ ニホンカモシカ イダアナ その他 ()						
	年齢	?・新獣・成獣					性別	?・♂・♀
	性別						体重	kg
● 状態 温度の範囲 範囲 普通 程度 温度の範囲 この項目での動物種にお適です。								
● 手術 処置 保護された動物を①として最良の治療のため②として③として下さい。いくつかかまいません。								
外科的疾患		内科的疾患		寄生虫寄生		汚染中毒		
骨折(部位)	栄養不良	外部寄生虫	鉛中毒	衰弱	その他			
打撲(部位)	消化器疾患	()	鉛中毒	衰弱	その他			
咬傷(部位)	呼吸器疾患	内部寄生虫	重金属	衰弱	その他			
外傷(部位)	感染症(部位)	()	重金属	衰弱	その他			
気管気管	神経学的異常	()	重金属	衰弱	その他			
その他	()	その他	その他	その他	その他			
その他	その他	その他	その他	その他	その他			
保護された動物を①として最良の病状のものより②・③として記入して下さい。いくつでもかまいません。								
● 手術 処置 行った治療法を①として②をつけて下さい。								
保護・捕獲・給餌・動物給餌・動物搬入・抗生物質・抗真菌剤・ビタミン剤・ステロイド剤・駆虫・止血剤								
テープ固定・ピンニング手術・外固定・その他の手術 ()・野生復帰リハビリ								
電話等による飼育指導・その他 ()								
● 予 後 ①項目のみをつけて下さい。全てカルテは行末の欄を記載して下さい。								
治療結果	治療開始	経過	経過	経過	経過	経過	経過	
飼育継続中 ()	院内	保護者	里親	公共施設	公共施設	公共施設	公共施設	
死亡 ()	治療開始後	日付	原因	原因	原因	原因	原因	
来院時死亡	安楽死	予後不明	予後不明	予後不明	予後不明	予後不明	予後不明	
拒付書類の有無 有 (カルテ等治療経過書 写真 その他 ()) 無								
死亡届書の提出の有無 有 (依頼日 年 月 日) 無								
死亡届書の提出の有無 有 (依頼日 年 月 日) 無								
WJRVに対するご意見、ご希望、カルテ記載方法に対するご意見、ご希望がございましたらお知らせ下さい。								

06'報告施設数と保護種数

県	施設数	鳥類	哺乳類	爬虫類	県	施設数	鳥類	哺乳類	爬虫類
北海道	7	63	5		愛知県	2	26		1
山形県	1	4			京都府	2	58	2	
栃木県	1	48	7		滋賀県	2	21	2	
茨城県	1	85	17		鳥取県	1	123	23	1
千葉県	2	119	8		岐阜県	25	143	16	
埼玉県	3	208	14		大阪府	2	109	5	3
東京都	60	441	34	4	山口県	1	1	2	
神奈川県	3	167	8	2	高知県	1	4	4	
山梨県	1	2			福岡県	1	14	2	
群馬県	2	8			長崎県	1	118	10	
新潟県	1	14	2		宮崎県	1	26		
福井県	26	222	28		沖縄県	1	26	5	2
静岡県	1	35	4		WRV	2			

06'動物分類別診療報告件数

■ 総報告件数 2329件

鳥類 2117件 (90.90%)

哺乳類 199件 (8.54%)

爬虫類 13件 (0.56%)

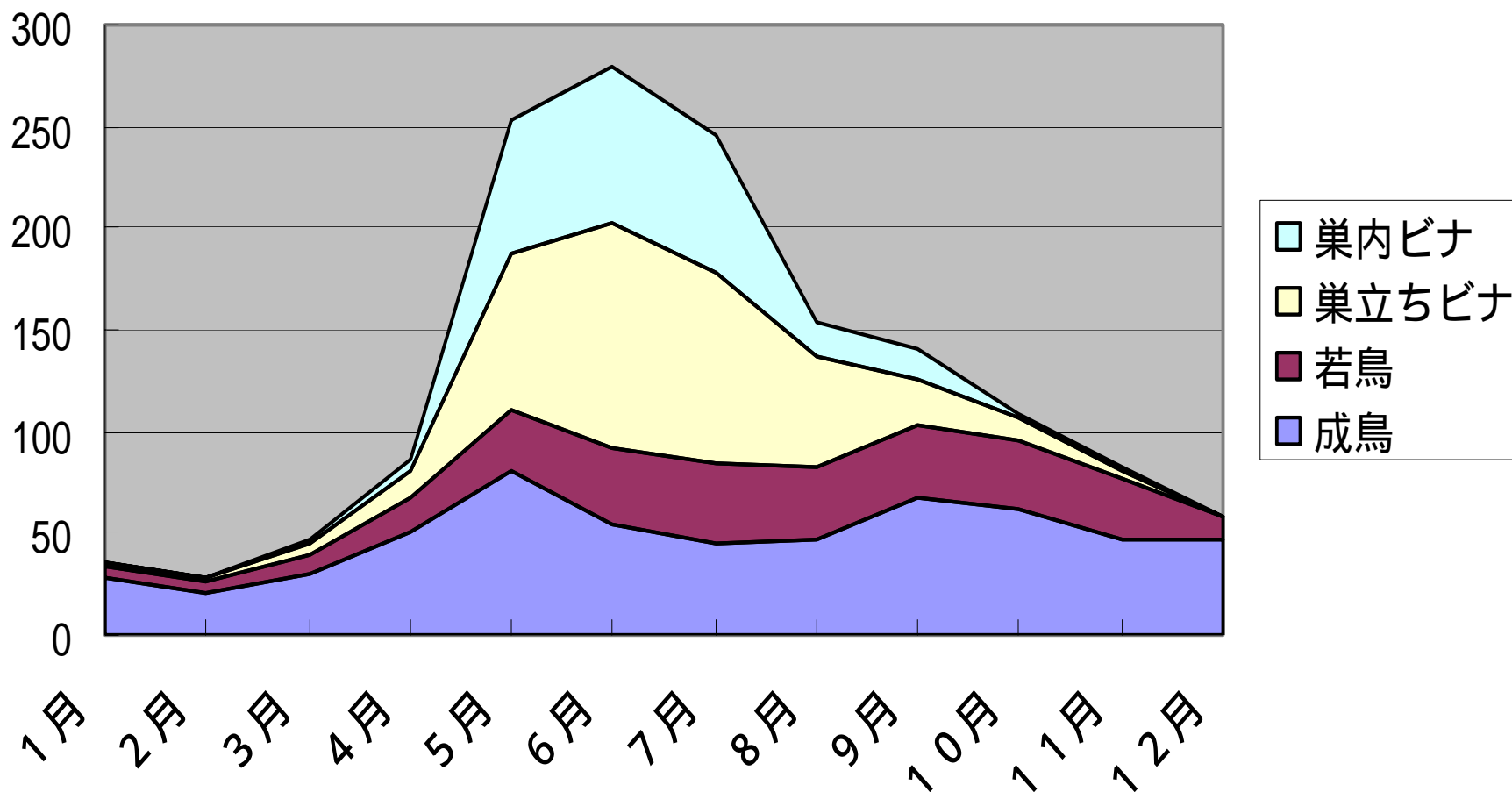


06'鳥類報告種上位20種

173種2117件中

種類	件数	%	種類	件数	%
スズメ	316	14.93	トビ	37	1.75
ツバメ	242	11.43	ゴイサギ	27	1.28
ドバト	238	11.24	ハシボソミズナギドリ	25	1.18
キジバト	147	6.94	アオサギ	22	1.04
カルガモ	89	4.20	アオバズク	22	1.04
ムクドリ	87	4.11	カワラヒワ	22	1.04
ヒヨドリ	83	3.92	フクロウ	21	0.99
カラス	67	3.16	オナガ	18	0.85
メジロ	61	2.88	コサギ	16	0.76
シジュウカラ	38	1.79	オオタカ	14	0.66
上位10種合計	1368	64.62	上位11～20種合計	224	10.58
			上位20種合計	1592	75.20

06'保護鳥の月別数



06'保護数上位の保護月推移

種類（件数）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スズメ(316)	0.3	0.3	0.6	3.2	25.0	27.8	23.7	9.2	5.7	0.9	1.9	1.3
ツバメ(242)	0.0	0.0	0.0	1.7	13.2	22.3	42.1	19.0	1.2	0.4	0.0	0.0
キジバト(147)	2.7	3.4	6.1	8.8	6.1	8.8	5.4	10.9	19.7	15.6	9.5	2.7
カルガモ(89)	0.0	0.0	3.4	0.0	24.7	36.0	11.2	11.2	4.5	5.6	3.4	0.0
ムクドリ(87)	0.0	1.1	1.1	3.4	42.5	19.5	18.4	6.9	3.4	0.0	3.4	0.0
ヒヨドリ(83)	2.4	0.0	3.6	6.0	7.2	15.7	14.5	19.3	4.8	7.2	1.2	18.1
シジュウカラ(38)	0.0	0.0	2.6	5.3	18.4	31.6	18.4	5.3	2.6	7.9	5.3	2.6
トビ(37)	2.7	2.7	0.0	8.1	27.0	8.1	8.1	10.8	10.8	10.8	10.8	0.0
ゴイサギ(27)	0.0	7.4	7.4	0.0	7.4	0.0	0.0	7.4	40.7	14.8	7.4	7.4
アオバズク(22)	0.0	0.0	0.0	13.6	13.6	22.7	27.3	4.5	13.6	4.5	0.0	0.0

06'都道府県別保護種上位10種

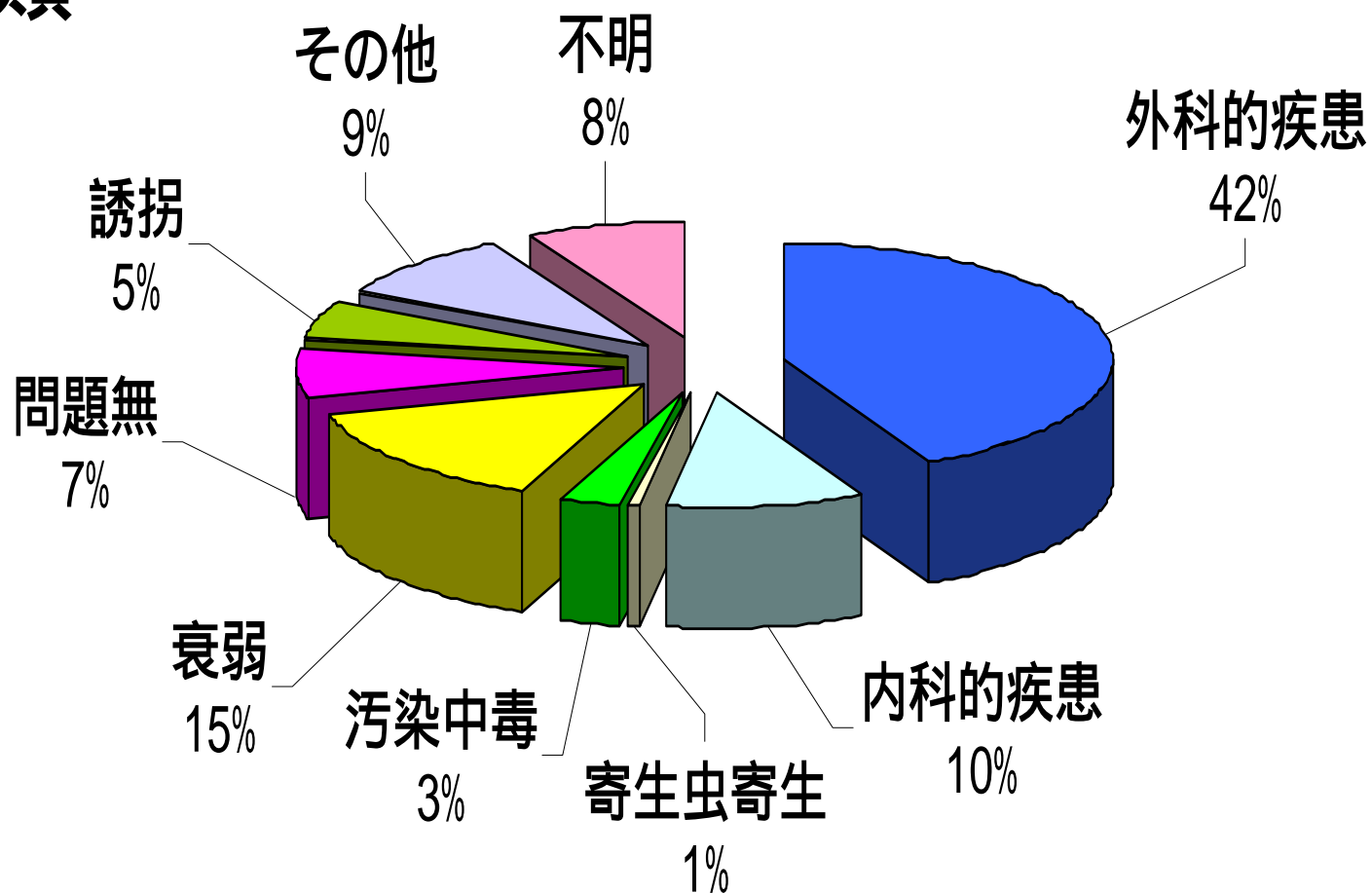
全国1位スズメ、2位ツバメ、3位ドバト

県	北海道	茨城県	千葉県	埼玉県	東京都	神奈川県	福井県	岐阜県	大阪府	鳥取県	長崎県	沖縄県
1	ドバト	ハシロリ ミヅギドリ	ドバト	スズメ	スズメ	スズメ	スズメ	ツバメ	ドバト	ツバメ	ドバト	シロハラ クハ
2	タシギ	ツバメ	スズメ	キジバト	ドバト	ドバト	ドバト	ドバト	スズメ	スズメ	スズメ	アオサギ
3	フクロウ	スズメ	ツバメ	ドバト	キジバト	ツバメ	トビ	スズメ	キジバト	キジバト	ツバメ	リュウキュウ コノハズク
4	ヒヨドリ	ムクドリ	キジバト	カルガモ	ヒヨドリ	メジロ	ツバメ	キジバト	ツバメ	トビ	シロエリ オオハム	リュウキュウ アカショビ
5	ヒバリ	フクロウ	ヒヨドリ	メジロ	ツバメ	カルガモ	カルガモ	カルガモ	ヒヨドリ	ドバト	キジバト	キンバ
6	アオサギ	カルガモ	ヒバリ	ヒヨドリ	カルガモ	キジバト	セキレイ	ヒヨドリ	ムクドリ	ムクドリ	コサギ	オウゴン
7	ツグミ	メジロ	ハシロリ ミヅギドリ	ムクドリ	メジロ	シジュウカラ	キジバト	カラス	カワラヒラ	ヒヨドリ	アオサギ	キジバト
8	アオバト	アカゲラ	オオタカ	ツバメ	ムクドリ	カラス	カモ	カケス	ホシムシクイ	フクロウ	ゴイサギ	カムリウツギ
9	スズメ	カワセミ	メジロ	カラス	シジュウカラ	ムクドリ	カラス	ゴイサギ	ケリ	カムリ カイツブリ	シロハラ	イガキ ヒヨドリ
10	カモメ	クロガモ	カワラヒラ	ゴイサギ	オナガ	オナガ	ムクドリ	カワラヒラ	カラス	モズ	カモ	スズメ

06'鳥類保護理由

保護理由	件数	%	保護理由	件数	%
飛べない 動けない	577	27.2	化学物質汚染	52	2.46
巣の破壊	159	7.51	誘拐	49	2.31
猫より救出	137	6.47	釣糸が絡まる	12	0.57
交通事故	89	4.20	巣立ちの失敗	8	0.38
巣から落下	83	3.92	農業ネット	7	0.33
衰弱	77	3.64	罨	2	0.09
ガラスより救出	72	3.40	その他	95	4.49
怪我をしている	72	3.40	不明・未記入	506	23.90
激突(ガラス、 建物、電線)	60	2.83			

06'臨床診断内訳図 鳥類



06'臨床診断詳細 (外科的疾患)

2117件中903件
42.65%



詳細	件数	%
骨折	327	36.21
外傷	257	28.46
打撲	159	17.61
咬傷	70	7.75
そ嚢破裂	10	1.11
気嚢破裂	6	0.66
その他	71	7.86
不明	3	0.33

06'臨床診断詳細 (内科的疾患)

2117件中206件
32.52%



詳細	件数	%
栄養不良	99	48.06
神経学的異常	67	32.52
呼吸器疾患	14	6.80
消化器疾患	5	2.43
感染症	3	1.46
その他	15	7.28
不明	3	1.46

06'臨床診断詳細 (その他)

2117件中767件
36.23%



詳細	件数	%
衰弱	310	40.42
特に問題なし	147	19.17
誘拐	109	14.21
巣立ちの失敗	66	8.60
巣の破壊	11	1.43
巣より落下	3	0.39
その他	117	15.25
不明	4	0.52

06'報告件数上位の臨床診断別件数

173種2117件中

	外科的	内科的	寄生虫	汚染中毒	衰弱	問題無	誘拐	その他	不明
スズメ(316)	23.42	14.24	0.63	3.16	17.09	9.49	9.18	13.61	9.18
ツバメ(242)	19.01	7.02	1.24	4.55	17.36	7.85	6.61	23.14	13.22
キジバト(147)	63.27	4.08	0.00	0.00	10.20	5.44	5.44	6.80	4.76
カルガモ(89)	32.58	17.98	0.00	0.00	4.49	14.61	6.74	15.73	7.87
ムクドリ(87)	33.33	8.05	1.15	0.00	8.05	14.94	6.90	13.79	13.79
ヒヨドリ(83)	49.40	7.23	1.20	4.82	8.43	6.02	12.05	7.23	3.61
シジュウカラ(38)	39.47	18.42	2.63	5.26	10.53	5.26	10.53	2.63	5.26
トビ(37)	37.84	5.41	0.00	0.00	35.14	5.41	0.00	8.11	8.11
ゴイサギ(27)	51.85	11.11	0.00	0.00	25.93	0.00	0.00	3.70	7.41
アオバズク(22)	68.18	4.55	0.00	4.55	4.55	13.64	0.00	0.00	4.55

06'保護理由：猫より救出の鳥種別割合

29種137件

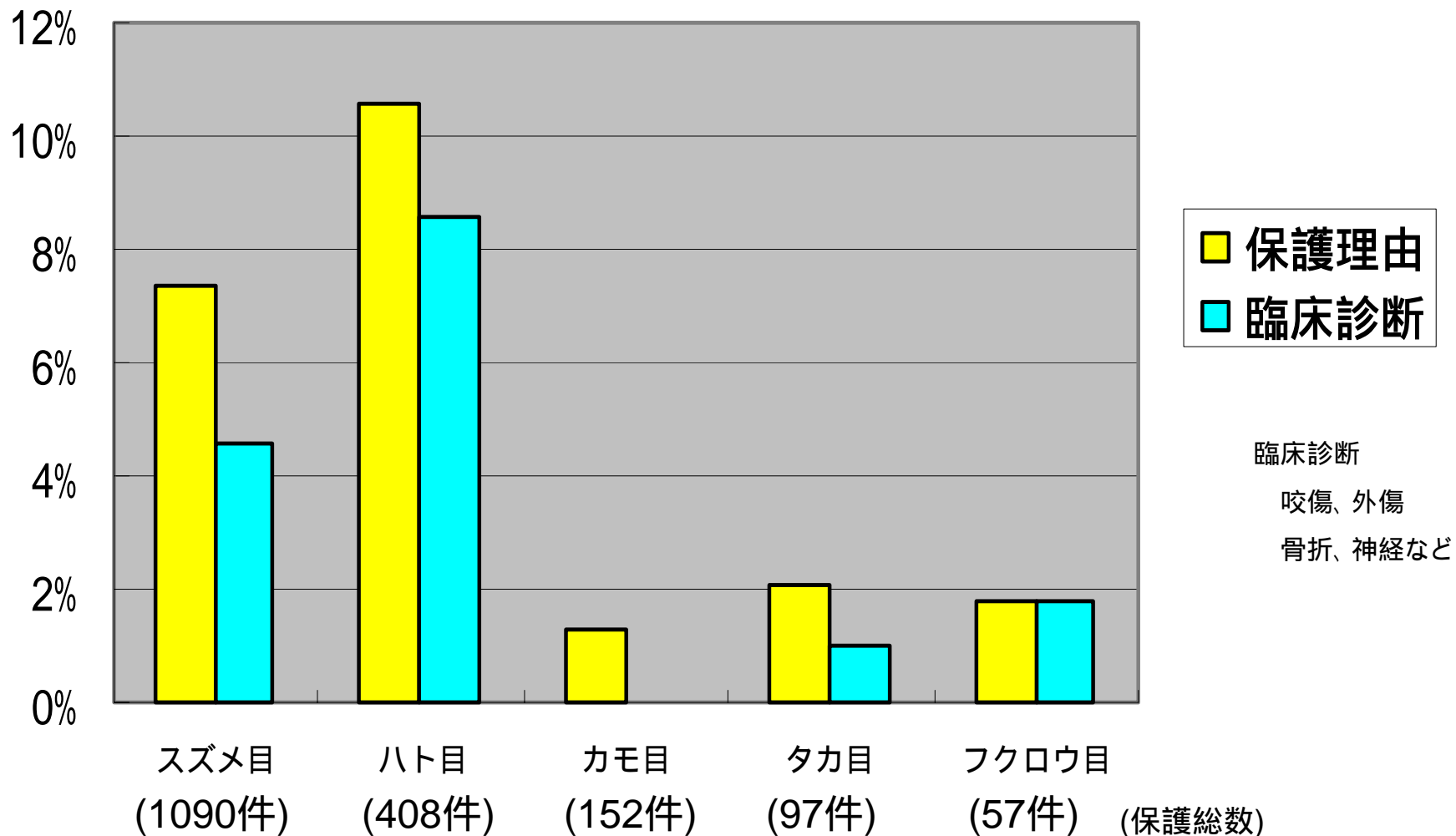
種類	保護総数	猫より保護数	%	種類	保護総数	猫より保護数	%
オナガ	18	4	22.22	アオバト	12	1	8.33
ヒヨドリ	83	14	16.87	シジュウカラ	38	3	7.89
キジバト	147	21	14.29	ツグミ	13	1	7.69
モズ	8	1	12.50	ウグイス	14	1	7.14
カラス	67	8	11.94	オオタカ	14	1	7.14
ムクドリ	87	9	10.34	メジロ	61	4	6.56
キジ	10	1	10.00	アオバズク	22	1	4.55
ドバト	238	21	8.82	ツバメ	242	4	1.65
スズメ	316	27	8.54	カルガモ	89	1	1.12

06'保護理由：猫より救出の臨床診断



臨床診断	詳細	件数	%
外科的疾患 97件	咬傷	44	45.36
	外傷	22	22.68
	骨折	20	20.62
	打撲	8	8.25
	その他	3	3.09
内科的疾患 5件	神経学的異常	3	60.00
	栄養不良	1	20.00
	消化器疾患	1	20.00

06'保護理由と臨床診断(猫より救出)



06'保護理由:人工物に激突の種類

鳥類43種120件



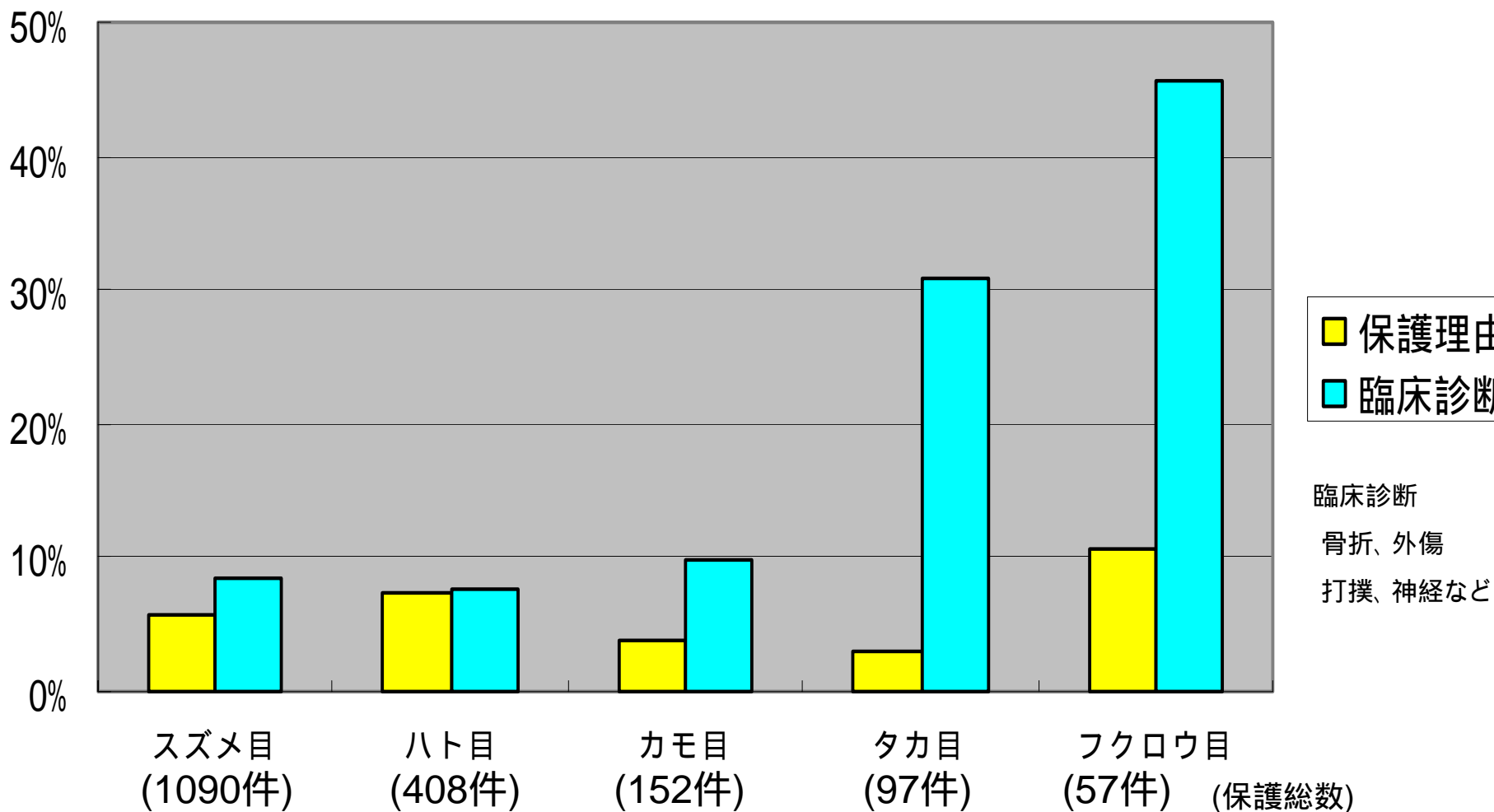
	件数	%
ガラス	56	46.67
建物	31	25.83
電線	14	11.67
車	4	3.33
電柱	2	1.67
不明	13	10.83

06'保護理由:人工物に激突の鳥種別割合

鳥類43種120件

種類	保護総数	激突件数	%	種類	保護総数	激突件数	%
ハクチョウ	6	4	66.67	アオバト	12	1	8.33
ムシクイ	3	2	66.67	メジロ	61	5	8.20
カイツブリ	2	1	50.00	キジバト	147	11	7.48
メボソムシクイ	6	2	33.33	ドバト	238	17	7.14
キンバト	3	1	33.33	カラス	67	4	5.97
キビタキ	13	4	30.77	ムクドリ	87	5	5.75
カワラヒワ	22	4	18.18	ヒヨドリ	83	4	4.82
アオバズク	22	4	18.18	スズメ	316	12	3.80
カワセミ	13	2	15.38	ゴイサギ	27	1	3.70
シジュウカラ	38	5	13.16	ツバメ	242	7	2.89

06'保護理由と臨床診断(人工物激突症候群)



06'まとめ:レッドデータブック掲載種



絶滅危惧 A類	クロコシジロウミツバメ	1	絶滅危惧 類	ヨタカ	1
	ウミスズメ	1		サンショウクイ	1
	カンムリワシ	1		シラコバト	1
絶滅危惧 B類	ミソゴイ	4	準絶滅危惧	オオワシ	1
	コアホウドリ	3		ヒクイナ	1
	キンバト	3		オオタカ	14
	オオクイナ	1		チュウサギ	6
	クマタカ	1		ミサゴ	4
	オオヨシゴイ	1		カラスバト	2
	チュウヒ	1		ハイタカ	2
	ブッポウソウ	1		ウズラ	1
絶滅危惧 類	ハヤブサ	8	ハチクマ	1	
	サシバ	2			

06'鳥類の予後日数

死亡898件、放鳥787件

死亡	3日以内	565	62.92
	7日以内	677	75.39
	15日以内	728	81.07
	16日以上	170	18.93

死亡件数に安楽死、来院時死亡含む

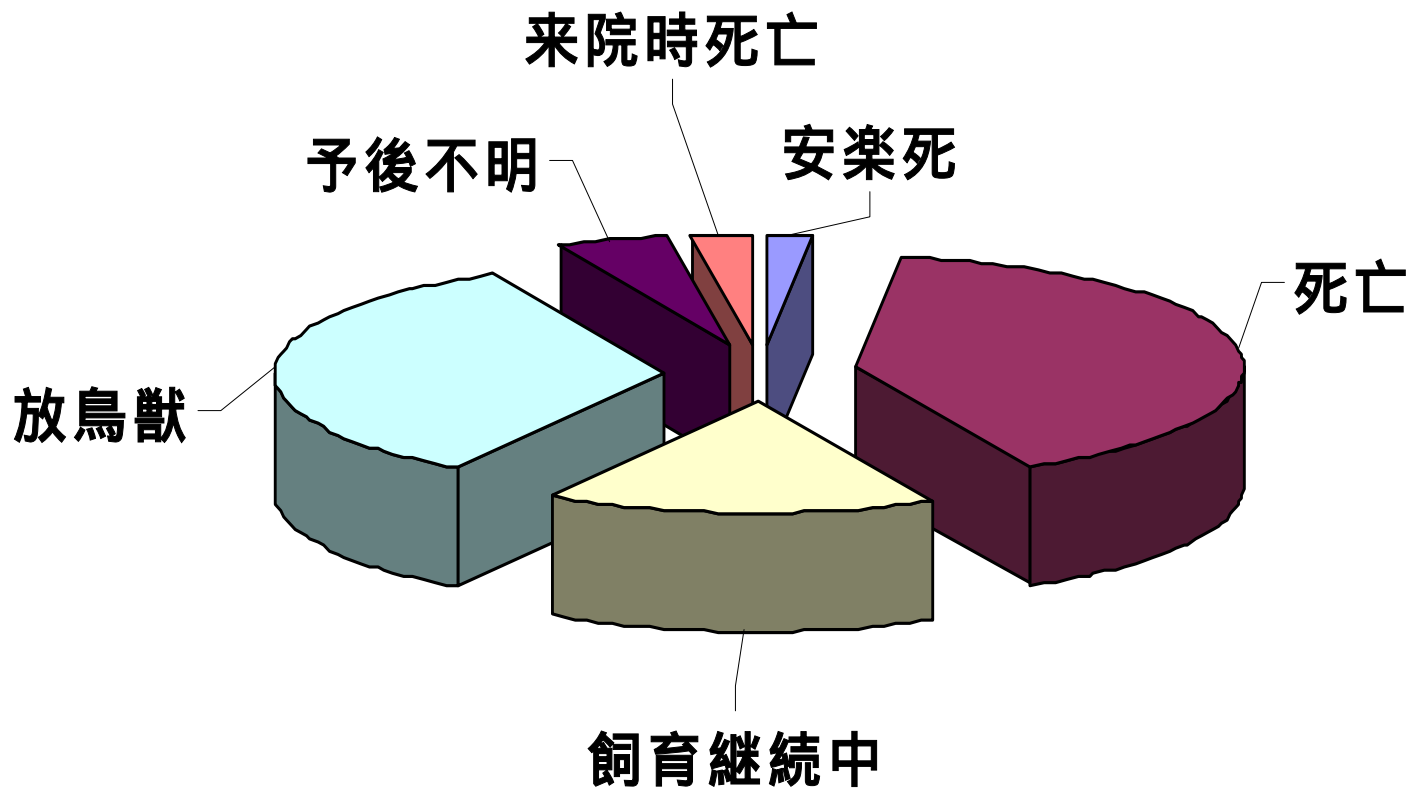
放鳥	3日以内	242	30.75
	7日以内	358	45.49
	15日以内	493	62.64
	16日以上	294	37.36

06'鳥類の年齢別保護から7日間の死亡率

【日数までの死亡数 / 年齢の死亡総数】

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
巢内ビナ (89)	17.98	48.31	60.67	62.92	66.29	69.66	76.40
巢立ちビナ (148)	25.68	48.65	49.32	66.22	75.68	79.05	83.11
若鳥 (96)	31.25	61.46	81.25	84.38	87.50	92.71	95.83
成鳥 (205)	45.85	68.78	80.98	85.85	90.73	93.66	97.56

06'鳥類の予後内訳図



06'鳥類の診断別予後

	外科的疾患 (903)	内科的疾患 (206)	寄生虫寄生 (15)	汚染中毒 (61)	その他 (767)	不明 (165)
放鳥	32.12	25.24	53.33	36.07	47.85	29.09
飼育継続中	17.39	25.24	6.67	9.84	11.86	12.12
死亡	44.74	43.20	26.67	50.82	37.42	50.30
予後不明	5.76	6.31	13.33	3.28	2.87	8.48

06'鳥類の年齢別予後

	巢内ビナ (253)	巢立ちビナ (396)	若鳥 (292)	成鳥 (578)	不明 (598)
放鳥	38.34	42.68	35.96	42.39	28.60
飼育継続中	20.95	16.41	21.58	12.11	12.71
死亡	37.15	38.38	38.01	42.39	49.50
予後不明	3.56	2.53	4.45	3.11	9.20

06'鳥類の原因別予後

	放鳥	飼育継続中	死亡
全 体	37.18	15.45	42.42
外科的疾患	32.12	17.39	44.74
内科的疾患	25.24	25.24	43.20
その他	47.85	11.86	37.42
人工物激突	34.17	19.17	41.67
猫より救出	27.74	20.44	43.07
絶滅危惧種	48.44	15.63	34.38

06'考察一傷病鳥救護カルテで解ったこと

- 保護鳥数は月によって変動し、夏に多い
- 成鳥保護数は月別変動が少ない
- ヒナや幼鳥増加に伴って保護数は春から夏に多い
- 保護鳥は人間社会適応種が多い
- 希少種鳥は保護鳥数の3%
- 都市型人間は野鳥に関心が高い
- 傷病鳥原因は人為的なものが多い
- 保護鳥は地域性がある
- 保護鳥の4割弱が放鳥され、4割強が死亡
- 放鳥の7割は保護日より15日目以内
- 死亡鳥の7割は7日目以内に死亡
- 飼育継続は保護鳥の1~2割
- 飼育継続は差があるが動物病院に多い
- 安楽死は動物病院差があるが低率
- 保護鳥は特定(指定)病院に集中
- 傷病原因や種によって予後割合は変動
- 行政からの診療補助金は少なく、動物病院の自己負担大

06' 傷病鳥救護の今後の課題

- 動物病院を一次診療施設に
- 野生動物臨床獣医師の養成
- 傷病鳥の予後判定基準の設定
- 一次診療に予算処置を
- 行政は野生動物保護施設(センター)を充実
- 野生動物リハビリテーターの養成と配置
- 野生動物救護活動費の確保
- センターを二次診療施設に
- 感染症や化学物質汚染調査
- 生態調査や繁殖実施
- 傷病原因分析から事故防止対策
- 放鳥後の行動調査
- 野鳥保護の国民への啓発
- 環境教育へのセンター利用
- 調査、研究、教育など一元化